

高松市立円座小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

自ら考え、認め合い、進んで行動できる円座っ子の育成

【本校の現状と課題】

○学校の現状より

・昼休みには元気よく運動場で遊ぶ姿が見られるが、運動場が狭く、安全のために周囲に注意をしながら運動する必要がある。よって、思いっきり走ったり、ボールを投げたりすることが難しい。

・体育の授業において、1～4年は2学級ずつ運動場を使用しているため、広い場所を必要とする単元では十分な運動量を確保しにくい。

○「新体力テストの数値分析の結果」より

・昨年度より、体力テストの結果が大きく上昇した。先生方の意識の変化が大きいのではないかと考える。自校の課題を把握し、それを改善しようという意識をもつことが大切である。そんな中で、ボール投げが、男女ともに全学年で平均より低いという結果となった。50m走も半分以上の学年で低い。

【取組み】

Eリンピックプチ

学校内の体育活動で大半を占めるのは、やはり体育の学習である。その体育の授業の質を向上させたい。具体的には、職員研修を行い、教師の授業力を向上させることである。

また、月に1つ運動を決め、体育の学習内の5分で全校児童がそれぞれ同じ活動を行う。学習内で共通の活動を入れることで、学校全体の体力の底上げを図る。

新体力テストの分析

本校の職員全員で、円座小学校の体力について考える時間を確保する。

円座小学校の児童に体力面において課題があることを全教員が危機に感じ、向上させようという共通理解を図ることが大切である。

また、新体力テストを実施する際には、昨年度の自分の結果を省みて、目標を立てた上で実施させる。

kagawa 体力番付の活用

今年度から始まった標記の活動に学校全体で取り組み、運動場で遊ぶ以外に、体力を高められる場所と時間を確保する。

体育委員が積極的に周知することで、児童自らが自身の体力を高めたいという意識をもてるようにする。

【目標】

- ①「新体力テストの数値における目標」(R8年度の結果で…)
 - ・ボール投げの種目で、平均値以上の学年を半分以上にする。
 - ・50m走の種目で、平均値以上の学年を半分以上にする。
- ②「運動に対する意識・運動習慣における目標」
 - ・昼休みの外遊び実施率95%以上にする。
 - ・体育の授業が好きと答える児童の割合を、90パーセント以上にする。